

研究成果の紹介

小麦新品種「ゆめちから」の認定品種指定

県産麦を活用した製品開発をサポートするため、タンパク質含量が高く、しょうゆ製造に適した新品種「ゆめちから」を2012年11月に認定品種として指定した。本品種はパン用としても適性が高く、今後の新製品開発が期待できる。

内容

県西部では、醸造（しょうゆ）用小麦が生産されており、地元のしょうゆ会社と提携した新製品も開発されている。従来醸造用の小麦品種としては「シロガネコムギ」や「ふくほのか」を用い実肥施用で対応していたが、年次によってはタンパク質含量が低くなり、醸造適性が劣るといった欠点があった。そこで、北海道農業研究センターで育成された、タンパク質含量が高くなりやすい小麦新品種「ゆめちから」を導入して醸造適性の改善を目指したところ、従来の品種より1%程度安定して向上したことから、有望と考えられた。

「ゆめちから」の特性は、「シロガネコムギ」と比較して、出穂期は16日程度、成熟期で9日遅い極晩生品種である（表）。10月上旬～12月上旬に播種すれば、ほぼ同時期の6月4半旬に成熟するため、播種適期が長い。稈長はほぼ同じで、穂長は長く、穂数はごく少ない。千粒重は同程度である。赤さび病、赤かび病の発生は同程度であり、倒伏には比較的強い。湿害には特に弱く、穂数が減少し収量が低下しやすい。子実タンパク質含量

は実肥施用で安定して13%程度であり、醸造（しょうゆ）適性が高い。

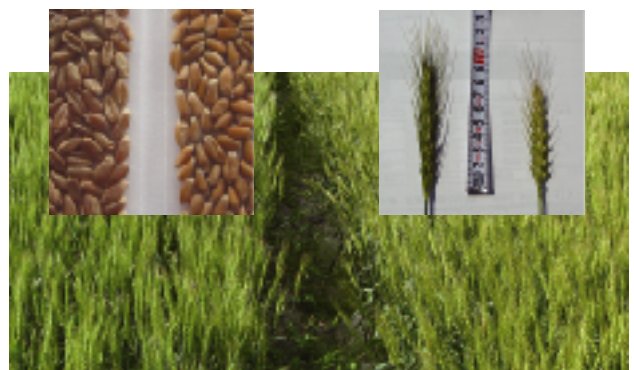
また、「ゆめちから」はグルテン強度がきわめて強く、「ふくほのか」等の品種とブレンドすることにより高品質のパン生産が可能である。このように、新規用途の製品開発が期待できることから、認定品種として指定した。

普及上の注意事項

「ゆめちから」は現地の刈取時期が6月20日以降となる。降雨による品質の低下が大きいので、収穫作業は計画的に行う。また、湿害には特に弱いので、排水対策を徹底することが重要である。

岩井 正志（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）



生育、粒、穂の状況(左:ゆめちから、右:シロガネコムギ)

表 「ゆめちから」の品種特性(2007-2011年播種:場内標記)

	出穂期	成熟期	倒伏程度	稈長	穂長	穂数	収量	対照比	千粒重
	月・日	月・日	0-5	cm	cm	本/m ²	kg/a	%	g
ゆめちから	4.27	6.13	0.6	78	9.7	608	50.5	94	35.3
対照)シロガネコムギ	4.11	6.04	1.3	77	7.8	781	54.0	100	33.8

注)倒伏程度は、0(無)～5(甚)の6段階で示す